

## パネルディスカッション1のまとめ（1）

1. [PRAの向上と活用] 過去PRAは（ABWR設計や過酷事故対策立案に使われたものの）、脆弱な点を見つけ安全性を向上させるよりも安全をアピールする為に使われてきた嫌い。NRRCは産業界のデータや手法の整備をリードし、PRAの質を高め、事業者はPRAからの知見を意思決定に活用しリスク低減に役立てるべき。一方、リスク低減効果の少ない箇所からよりリスク低減効果の大きな箇所へと合理的な資源配分にも安全上の課題の相対的なプライオリティ付けにおいても活用されるべき
2. [過去への反省] わが国ではリスク情報が米国ほど活用されてこなかった理由を把握し（経営姿勢、社会のリスクへの向き合い方、リスク評価技術の成熟度、など）、NRRCと電力はその反省にもとづいて行動し、その理由にきちんと立ち向かうべき
3. [PRAの質を高める研究] 電中研の中にあるという特性を生かし、知見が不十分かつ不確かさの大きな自然現象等についての研究成果をPRA手法開発に生かしてほしい

## パネルディスカッション1のまとめ（2）

4. [基本思想確立] NRRCは産業界を支援し原子力の基本安全原則(深層防護等)に則った活動の中でリスク情報をどのように役立てるか基本思想を確立すべき。例えば、
  - ✓ 責任ある事業者としての安全目標
  - ✓ 確率論的手法と決定論的手法の併用のありかた
5. [リスク評価とその結果への視点] 住民の立場に立って、リスク評価を行い、結果の意味するところを伝えるべき(例えば100TBqのCs-137放出は住民にとって何を意味するのか)
6. [リスクコミュニケーション] 電力もNRRCもインパクトあるメッセージをどう発信するかを考えるべき。一方で、リスクとどう向きあうかを日本人は考えるべき
7. [リスクコミュニケーション] 原子力は社会にとっての便益を生む。NRRCは原子力を失うリスクを含めて原子力のリスクと便益について発信すべき
8. [リスクコミュニケーション] 原子力は難解で確率や程度の概念がぬけて安全か否かという二元論で論じられがちで価値観に依拠してリスクへの姿勢を決められがち。こんな中で、リスク情報がきちんと発信できるようNRRCに大いに期待

## パネルディスカッション1のまとめ（3）

9. [自由化の中の電力と原子力安全]今後の電力市場自由化の中で電力が安全性向上にむけたインセンティブを維持確保する仕組みを考えるべき
10. [海外の知見の活用]リスクの評価・管理・コミュニケーションに関し、海外の良い慣行・効率的な仕事のやりかたも学び、これを含め電力を支援してほしい
11. [監視システム]安全性向上に向けては外からの安全監視という仕組みが重要で、JANSIもNRRCもこの点を考慮に入れるべき